

新年度のクレジット市場を考える —コロナショックと投資選別—

中空 麻奈 CMA・CIIA

目 次

1. 不透明な新型コロナウイルスの動向と世界情勢
2. クレジット市場はどのように反応すべきなのか
3. 注目ポイント
4. 今どうするか、“世界の枠組みが変わる”その先をどうみるか

1. 不透明な新型コロナウイルスの動向と世界情勢

本日は、新型コロナウイルスショックとクレジット投資について考えてみたい。はじめに、新型コロナウイルスの動向と、これに対してクレジット市場はどのように反応すべきかについて説明し、その後、注目ポイントを取り上げる。

新型コロナウイルスの感染者が増加している地域をみると、先進国から新興国にシフトしているのが分かる。新興国は、先進国に比べると一般的に財政出動の余地が小さい分、問題が深刻化しやすく、感染者数が増えやすい。地球全体でみると、新興国に新型コロナウイルスが残る限り、ウイルス感染の第2波、第3波が先進国に戻ってくると

考えられる。ウイルス感染が収まりつつあるのではなく、リスクが新興国に移ったに過ぎない。

先進国経済への新型コロナウイルスの影響をIMFの世界経済見通しでみると、非常に大きく下方修正されている。2020年夏までにコロナ問題が収束するとの見通しに立っても、このような状況である。IMFのシナリオでは、21年には景気回復を見込んでいるが、コロナ問題が20年夏までに収束しなければ、再度の下方修正が予想される。1931～32年に、大恐慌により世界の経済成長率はマイナス13%という数字を記録した。今回、この大恐慌と同程度まで経済成長率の下方修正がなされても不思議ではない。2020年の世界経済は非常に苦しい状況である。多くの国では財政政策を出動させている。また、先進国各国では



中空 麻奈（なかぞら まな）

BNPパリバ証券株式会社グローバルマーケット統括本部副会長チーフクレジットストラテジスト、チーフESGストラテジスト。1991年慶應義塾大学経済学部卒業、同年、野村総合研究所に入社。97年野村アセットマネジメント、2000年モルガンスタンレー証券、04年JPモルガン証券を経て、2008年BNPパリバ証券に転籍、クレジット調査部長。19年1月市場調査本部長チーフクレジットアナリスト、チーフESGアナリスト、20年2月より現職。

（本稿は2020年5月8日に録画し、動画配信した講演会の要旨である。）